

〈史料翻刻〉

紀州藩家老三浦家文書（二七）

—江戸出府日記・御用番留帳—

上
村
雅
洋

凡例

六〇 御用番留帳（寛文二一年正月朔日～四月二九日）

凡例

一 本文書は、和歌山大学紀州経済史文化史研究所蔵の紀州藩家老三浦家文書であり、日記類を中心にほぼ年代を追って逐次翻刻する。三浦家文書については、本誌第四号所収の「紀州藩家老三浦家文書目録」を参照されたい。

一 史料名は、できるだけ「紀州藩家老三浦家文書目録」を踏襲した。





一 使用字体は、常用漢字を用い、それ以外は異字・俗字・略字もなるべく原文のままを尊重した。

一 仮名文字は、江・而・者・茂以外は、すべて現行の字体に改めた。

一 印刷にさいしては、なるべく原本の体裁をとどめることを原則としたが、組版の都合上一部改めた。

一 本文が訂正されている場合は、書き改められたものを採用した。

一 印章はいちいち模刻せず、・のように輪郭を模した。

一 虫損・破損などによって文字が判読できない場合には、字数を推定して□で埋め、字数が推定できない時は、をもってその箇所を示した。

一 本文以外の部分は、上下に「」を付し、(表紙)(端書)(異筆)(付箋)などと傍注した。

一 文字の誤脱などには()で傍注を加えたが、判読可能なものについては、特に注記しなかったものもある。

一 文意の通じないもの、疑義のあるものには(ママ)と傍注し、推定可能なものには(カ)と傍注して意見を示した。

一 本文書の筆耕ならびに校訂は、上村雅洋(本学名誉教授)が行った。

六〇 御用番留帳

(表紙)

寛文十一年

亥ノ正月ノ同四月迄

留帳

正月朔日

今朝六半時分ニ先致登城、夫ノ御新宅へ可罷出との儀ニ候故、其通と申談候へ共、大殿様御病中故殿様御名代御礼左京様御礼をも、今日ハ御請不被成候間、拙者共太刀目録持参仕ニ不及候由、夜前御用達中ノ被申聞候、左候へハ内々御機嫌伺旁ニ先早天ニ御新宅へ罷出度存候故、幸の儀と今朝日出時分ニ主税助召連御新宅へ罷出、何もニ逢申主税助をハ御新宅ニ指置、拙者儀ハ六半時分ニ致登城候処ニ、帯刀、平右衛門ハ未罷出候、待合候へハ御新宅へおそく可罷成候、其上帯刀、平右衛門なども先御新宅へ可罷出哉など、之儀ニ候故、岡野平太其外御用達衆、御目付衆などニ逢申、追付御新宅へ罷出候

一今朝和歌へ為御名代未明ニ左京様御参詣被遊、西之御丸へ御帰御支度被成、早御新宅へ御出被為成候処ニ、頓而御対面被遊、其以後拙者儀被召出首尾能致御目見御慶申上候、松之助、其次ニ主税助致御目見、市十郎其外御傍衆致御目見候、主税助儀今日始而長袴着シ罷出候、尤拙者儀長袴着シ申候、但昨晚之通太刀目録今日ハ指上申候

扱四前ニ御新宅罷出、左京様御玄閑迄致伺公御礼申上帰宿仕、悴子共と盃こといたし、其以後家来之者之礼請申候

一四過ニ長怡、道伯御新宅へ被罷出候由承候ニ付、則罷出候処ニ、早兩人之衆被罷出候ニ付、シバラく語り申候、其以後長怡御前へ被出候節致同道罷出候、其後道伯被出候節も御前ニ罷有候、扱長怡、道伯へぞうに吸物などニ而御酒出、兩人共ニ退出也、座布替り候故、道伯ハシバラく跡ニ被有之、御酒をもゆるりとのミ被申昼過ニ退出也、其節拙者も帰宿仕候

一今日ハ元日之儀、其上拙者風氣爾と無之候故、最早今晚ハ御機嫌伺も不罷出候

一今日之御食事、夜ヲかけ四十め余被召上候由

同二日 日出時分ニ少雨

今未明ニ坂田へ致參詣五前ニ帰宿、夫の支度仕、四前ニ權五郎召連罷出候、いつも今日罷出候ニ付而也、尤長袴着し申候、昨日何も之御礼不被為受候ニ付而、尤權五郎も太刀目録指上不申候

一 昼前ニ長怡、道伯出被申候、其節御しんならせられ候ニ付而、右兩人八前ニ御前へ出被申、御脈伺被申候、一段と御脈能御座候、併少御と、こをり之所御座候ニ付而、御葉之儀寿安相談被致、八過ニ退出被申候

一 右兩人被出候節致同道罷出、致御目見御葉之儀弥無御遠慮御指図候様ニと、右両医へ拙者申候様ニと被仰付、其段申談候

一 御前ヲ両医御立候以後、殿様分の御使中井太郎兵衛御前へ被召出候、其跡ニ權五郎儀首尾能致御目見忝御意也

一 暮合ニ又罷出候処ニ、頓而医者衆御前へ罷出候ニ付、致御目見候処ニ、御機嫌能被為成御座、御脈も能御座候と医者衆申之旨被仰聞、何も御酒給候様ニと被仰出、左京様御前ニ而数盃被下、五過ニ帰宿仕候

一 昨日ハ元日故今昼迄御葉御休被為成候、就夫昼時分の御葉被召上候処ニ、御機嫌能御脈尚以能御座候由医者衆申候、

今晚ハ御声もた、せられ、御咄之内御はらいも御座候而、左京様不大形御満足之御事ニ而御酒被召上、拙者式も千萬目出度奉存数盃被下候

一 今日中之御食事三十め余被召上候由

同三日

今早天ニ罷出候処ニ、頓而医者衆罷出候ニ付、致御目見候処ニ、御機嫌能被為懸御言葉候、御脈尚以能被成御座候由医者衆申候、昨昼の御葉御服用被遊候処ニ、夜前分今日へ打つ、き御機嫌能被為成御座候、拙者儀五前ニ帰宿仕候一 四過ニ又罷出候処ニ、長怡、道伯被出候ニ付、良しバラくあいさつ仕、昼時分ニ御対面被遊候処ニ、兩人共ニ昨日の御脈弥能御座候由被申候

一 今度御煩付の御様子具ニ左京様、長怡へ今日御物語被成候処ニ、とくと合点仕候、左候へハ御葉之様子残所も無之、弥御相応と相見へ申候由被申候、只今迄ハ長怡へ之申様ニ相違有之様ニ相聞へ候

一 拙者儀御新宅分直ニ昼過ニ吹上屋布へ參、如例馬之乗初いたし、權五良、主税助にも乗せ申八過ニ帰宿仕候、右之節久野丹州へ年頭祝儀ニ參申置候

一 権五郎、主税助兩人ハ今朝姉とも伯父ともへ礼ニ參、夫ハ

御新宅へ罷出、右之通吹上屋布へも參候

一 今晚ハ御謡初ニ御座候ニ付、旁に暮合ニ長袴着シ罷出候、

則左京様致御目見、頓而医者衆罷出候ニ付而致御目見候処

ニ、御機嫌能被為懸御言葉、御脈も能御座候由、医者衆申

之旨被仰聞候

一 從中納言様いつも今晚御盃台御進上被成候ヲ市十郎披露仕

候処ニ、御機嫌能左京様為御名代御祝被成候様ニと被仰渡

候、就夫御座之間之御次広き御座布ニ而、左京様御祝被遊、

大御かわらけニ而御酒被召上、其御盃拙者ニ被下奉頂戴候、

剩其御盃指上候様ニと左京様御意被為成候へ共、立而辞退

仕候処ニ、再三御意被為成御取上被遊、重畳冥加至極成仕

合也

一 近年ハ急度御謡初と申儀も無御座、役者とも罷出小うたい

くセ舞なとうたい申候、鼓なども急度御拍子と無之、くセ

舞祝言など拍子申候、右之内何もニ御酒被下、五時分ニ相

濟、何も退出仕候

一 御盃台從中納言様御上ケ被成候迄ニ而左京様も近年御上

ケ不被成候、尤拙者式も指上不申候、帶刀、平右衛門など

ハ罷出候

一 いつも咄候衆私宅へ被參候ニ付、如例ぞうになと出シ、盃

こといたし緩々と語り、四半時分ニ帰り被申候

一 今日之御食事三十八匁ほど被召上候由

同四日 七時分少雨

頃拙者風氣おし候而罷出候ニ付、今朝ハ緩々と四過ニ罷出

候、長怡、道伯被出候ニ付、良しバラく語り申候

一 昼過ニ長怡、道伯被罷出候ニ付、致同道御目見仕候、扱両

医退出以後八時分ニ帰宿仕候、長怡ハ何もと御咄候而御新

宅ニ御入候

一 暮合ニ又罷出候処ニ、頓而医者衆罷出候ニ付致御目見候、

但御しんならせられ被成御座候、夜前ハ少御腹之御すじば

り御座候而、御脈ニ少かさも御座候由、今朝ハ被為和、今

晩ハ弥能御座候由医者衆申候を承、五時分ニ帰宿仕候

一 今日之御食事三十二匁程被召上候由

一 今日ハ娘とも年頭之礼ニ私宅へ參候

同五日 暮合の雨、夜中降

今早天ニ羅出候処ニ、頓而医者衆羅出候故致御目見候処ニ、

被為懸御言葉候、御脈も能御座候由医者衆申候を承、五前

ニ帰宿仕候

一長怡、道伯頓而被罷出由承候ニ付、四前ニ又罷出、両医と
良しバらく語り申候、扨昼過ニ右之衆被罷出候ニ付、致同
道罷出御目見仕候

一長怡被申候ハ少御脈不同ニ御座候由被申候、道伯ハ其後伺
被申候処ニ、始ハ長怡被申候通ニ伺申候処ニ、重而伺候様
ニと御意被成候ニ付而伺申候処ニ、早御脈ろくニ被為成候
由被申候、しバらく御薬之相談御座候而、八前ニ退出被申
候

一両医退出以後、拙者儀御新宅分渡部一学方へ年頭祝儀ニ参
申置、夫分松之助殿へ礼返しニ参、夫分寿光院へ参、扨宇
治屋布へ参如例祝候而、夫分戻りニ帯刀方へ参、八過ニ帰
宿仕候

一暮合ニ又罷出候処ニ、御脈ニむら有之由医者衆申候ニ付、
長怡、道伯ヲ左京様御よび被成御脈御伺せ被成候、両医共
ニ御脈不同ニ御座候由被申、相談を以寿安ニ御薬調合御さ
七御上り候、右之御薬一度被召上候を御聞候而、夜半前ニ
両医退出也、両医御脈伺被申候節御目見仕候、両医退出以
後、夜半時分ニ帰宿仕候

一今日之御食事三十四匁程被召上候、左候へハ昨日之御食事
ニハ二匁ほど多ク御座候故を以何も奉悦候

同六日 四時分迄雨、夜七時分あられ降、かみなり
なる

一今早天ニ罷出候処ニ、追付医者衆罷出候ニ付而致御目見候
処ニ、被為懸御言葉候、御脈之御様躰大形夜前之通ニ而御
座候由医者衆申候、長怡、道伯も其以後被罷出候ニ付致同
道罷出候、是も御脈夜前と大形御同筋の由被申候而五前ニ
御帰候、拙者も五時分ニ先帰宿仕候

一早々致支度四前ニ又罷出候処ニ、長怡、道伯も被罷出昼時
分ニ又御脈伺被申候処ニ、夜前分之御脈むすばをれ被為直
いかにもろくニ御座候由両医被申、何も恐悦仕候、御食事
も今朝分昼前迄両度ニ廿二匁ほど被召上候、昼過ニ両医退
出

一両医退出以後、拙者儀御新宅分直ニ水野平右、同三郎九へ
礼返しニ参、八過ニ帰宿仕候

一今晚七半時分ニ又罷出候処ニ日暮候而、医者衆罷出候ニ付
致御目見候処ニ、被為懸御言葉候、御脈今昼分之通打続能
御座候由医者衆申候、御少便もたつふりと通し、御腹心も
尚以能被成御座候由承、五時分ニ帰宿仕候

一 今七時分ニ御食事十二匁被召上候由、左候へハ今日中ニ三十四匁ほと被召上候

同七日

今早天ニ罷出候処ニ、頓而医者衆罷出候ニ付而致御目見候処ニ被為懸御言葉候、御脈ハ大形昨朝之御脈之様ニ御座候由医者衆申候を承、五過ニ帰宿仕候

一 早々致支度、又四前ニ罷出候処ニ長怡、道伯被罷出候、両御前へ致同道御目見仕候、御脈今朝御手医者とも申候通むら有之由御申候、拙者儀御傍近クニ而御様躰奉見候処ニ、殊外御や七被為成御草臥被遊候御様躰ニテ御座候

一 旧冬晦日、長怡始而御新宅へ被出候節、左京様を以長怡はいざい之御葉可被召上との儀ニ御座候処ニ、長怡結構成被申様ニ付而、先其通ニ被遊候へ共、右之御様躰ニ御座候間、長怡さじニ而御葉調合候様ニと左京様被仰候ニ付而、此上者兎も角も御意次第ニとの儀ニ而、長怡御葉調合被申候一右之御様躰ニ付、江戸へも三八印之御飛脚被遣候、扱各相談ニ而海野孫四郎を江戸へ指越申候、是ニも左京様委御様躰被仰遣候、長怡、道伯も御様躰被申上候、長怡ハ土井能登守殿、堀田備中守殿へ書状越被申候、孫四郎方ニ拙者共

も御様躰申上候、只今迄ハ次第ニ被為得御快氣、此度之御脈之御様躰も早速被為直候と津田治兵迄、昨日も拙者書状指越申候、ケ様之段相違之様ニ御座候へ共、爰元之御様子何も申參候通ニ而御座候間、左様御心得給候様ニと治兵へ伝言申候、扱長怡、道伯退出以後、八過ニ帰宿仕候

一 日之入相ニ又罷出候処ニ、長怡、道伯ヲ左京様御よび被為成御脈御伺せ被成候、今朝之御脈と大形御同意之様ニ長怡ハ被申候、道伯ハ今朝御脈能様ニ被申候、扱又長怡御葉被致調合五過ニ退出被申候、拙者儀ハ左京様御用御座候而しバラく御新宅ニ罷有、四過ニ帰宿仕候

一 今日之御食事昼之内両度ニ十八匁余、夜ニ入四時分迄之内御ねり湯両度ニ十七匁ほと被召上候

同八日

今早天ニ罷出候処ニ、追付医者衆罷出候故致御目見候処ニ、被為懸御言葉候、御脈昨晚今能御座候由医者衆申候を承、五前ニ帰宿仕候

一 追付四前ニ又罷出候処ニ、長怡、道伯被罷出、頓而御前へ出被申候ニ付而致同道罷出候、其節とくと御様躰奉見候処ニ、昨日御様躰能被為見へ候、長怡ハ御脈昨日之通爾と

無之由被申候、道伯ハ御脈能程直り申候とて悦被申候

一御食事今朝六匁、内二匁ハ御すり湯、昼過ニ八匁被召上候
内五匁ハ御かゆ也

一昨夜半時分ハ寿安御薬被召上候処ニ、早今朝御脈被為直候
との儀ニ御座候、夜中ハ御薬無之候ニ付、寿安御薬御上ケ
被成候旨、今朝長怡ハ左京様被仰候、道伯ニも被仰聞候、
拙者儀八前ニ帰宿仕候

一七半時分ニ又罷出候、左京様致御目見候処ニ、夜ニ入医者
衆御前へ出申候ニ付致御目見候処ニ、被為懸御言葉候、御
脈も今朝之通打つ、き能御座候由医者衆申候

一今日ハ左京様と鳥之事など御咄被遊候由、今度御病中ニハ
珍布能御事也

一御膳も又暮合ニ十二匁余被召上候、内六匁御かゆ之由、左
候へハ今日中之御食合廿六匁程也、昨日之御様躰以後ニハ
能御食事と何も奉恐悦候、右之御様躰承、五時分ニ帰宿仕
候

同九日 時々雨

今早天ニ罷出候処ニ、頓而医者衆罷出候ニ付御目見いたし
候処ニ、被為懸御言葉候、御脈ハ昨日之通ニ能御座候由医

者衆申候へ共、殊外御草臥被遊御つかへ御たん之御心も御
座候ニ付、長怡、道伯被罷出候迄直ニ罷有、両医被出候而
しバらく間御座候而御前へ出被申候、致同道罷出、尤致御
目見候処ニ、又被為懸御言葉候

一昨日ハ之御脈ニハ、今日之御脈能御座候由長怡被申候、道
伯ハ昨日ハおもしろく無之由被申候、併是ハふたり被申し
きあらく候而、御しんならせられ候、御脈うか、いにく、
有之候而、右之通被申候哉と推量仕候

一両医退出以後昼過ニ帰宿、又七時分ニ罷出候、今日ハ御つ
かへ御たん之御心も節々御座候ニ付、十大夫ハ節々罷出候
医者衆も罷出候ニ付、拙者なども御次之間迄節々罷出候

一夜ニ入、長怡、道伯をも左京様御よび被成候、併替御様子
も無之御しんならせられ候故、御脈をハ御見せ不被成、四
過ニ両師御婦り被成候、尤左京様被仰付候

一夜ニ入、寿安、道伯と相談ニ而御薬指上候処ニ、御つかへ
之御心も能御足なども御あた、まり被為成、御脈も能御座
候由ニ而、何もあんど仕候、就夫拙者儀四半時分ニ致帰宿
方々ハ參候状之返状認申候

一今日之御食事十三匁ほど被召上候、其内大形御すり湯也

同十日 夜ニ入少雨

今朝ハ未明ニ罷出候処ニ、頓而加納十大夫斗罷出候、尤左京様も御出被成候、拙者儀御障子之外迄罷出候処ニ、左京様御どんちやうの内へ入させられ御顔奉拝候、其以後医者衆罷出御脈伺申候、御脈ニハ別成儀も無御座候へ共、御つかへつよく惣御だ、い殊外御草臥被為成候、今日ハ御かゆなと少つ、被召上候へ共、爾といたしたる御様躰ニ而も無御座由

一 四前ニ長怡、道伯被罷出候、頓而御前へ出被申御脈伺被申候、長怡ハ御脈御同篇之由、道伯ハ御脈恵布ハ無之由被申候

一 御気色次第ニよわらせられ、御つかへつよく、御たんも出色々御養生御座候へ共、不被為叶申ノ上刻ニ被遊御逝去候、其節も御顔奉拝候

一 何時ニ而も加様之節、中納言様、左京様御拝見被遊候様ニと、日比御書付被為置候御書物御座候を左京様御拝見被遊、当分指当候御用之分被仰付候様ニと、市十郎其外申上候へ共、從中納言様御ささへ御拝見如何との思召ニ御座候故、帯刀、平右衛門、拙者なども申上候ハ不遲、御書物之儀ハ

思召御尤ニ御座候、指当たる御用之儀ハ、御拝見被成被仰付、御尤ニ奉存候旨申上候故、左候ハ、指当たる御用之分ハ御拝見可被成由ニ而、帯刀、平右衛門、拙者など御呼出、尤市十郎、久右衛門、左五之丞、畔田半右衛門罷出、御箱ヲ披キ半右衛門ヨミ申候、何も感涙をなかし申迄ニ御座候一夜ニ入、雲蓋院之呼申、市十郎其外之衆出合万事相談被申、雲蓋院退出也

一 左京様御行水被遊御上下被為召、御尊躰を御拝被為成候、右之御様子承、拙者儀五時分ニ帰宿仕候

同十一日 少あられふる

今日御尊骸拙者共其外之衆も奉拝候様ニと昨日相極り申候、左候へハ今朝五半時分ニ致登城、次郎吉様御機嫌奉伺、夫々西之御丸へ參、扱御新宅へ可罷出由昨晚帯刀方々申越候へ共、拙者儀ハ頃風氣ニ候へ共、おし候而罷出候故か今日ハ気相悪布、其上足も痛行歩不自由ニ候間、漸御新宅へ斗可罷出由返事仕、拙者儀ハ五過ニ直ニ御新宅へ罷出候一 中納言様為御名代次郎吉様、今朝四時分ニ御新宅江御出被成、御尊骸御拝被遊候、其御跡ニ帯刀、拙者、平右衛門、松之助、隠居衆、市十郎、其外御傍近キ衆奉拝候、権五郎、

主税助をも召連罷出、冥加之為ニ御座候間、如何可有御座哉と左京様へ奉伺候処ニ、尤ニ被為思召候旨被仰出、則両人之悴も罷出奉拝候

一 雲蓋院今朝御新宅へ被參、市十郎などへ万事相談也、拙者儀昼過ニ帰宿仕候

一 御尊骸今晚御入棺ニ付、七過ニ御新宅へ罷出、先左京様御機嫌奉伺候

一 御入棺之前、左京様御拝被遊候、其御跡ニ拙者も罷出候様ニと被仰出罷出奉拝難有仕合也

一 扨御入棺御座候而、亥ノ刻ニ御棺御表之御座之間へ出御被遊候、其節中納言様御名代可有御座哉と左京様御尋被為成候ニ付、御門外へ出御之節ハ左様之儀も可有御座候哉、是ハ御奥之御座之間御表之御座之間へ被為移候迄之儀ニ御座候間、急度中納言様御名代と申儀ハ御座有間敷候やと、了念、快遊、三説など、相談いたし申上候、就夫

一 御棺出御之時分、左京様御出し被為成候間、拙者ニ御手つだい仕候様ニと被仰付過分難有仕合也、扨右之通相勤御表之御座之間へ御直し被為成御拝被遊候、其御跡ニ拙者、了念、快遊、三説其外之衆奉拝候

一 扨左京様御退出被遊候御跡ニ、御新宅罷出四過ニ帰宿仕候
同十二日 五半時分の雪ふり、殊外寒し申候

御尊骸御新宅ニ被為成御座候内ハ、今日今日ニ三度つ、之御廻向御座候筈也、就夫今朝五過ニ雲蓋院被參御勤御座候、同宿ニハ大正院、利生坊、少武也、右之節左京様御長袴ニ而御膳御備被為成候、但色々御衣服御長上下也、拙者儀其節罷出候様ニと左京様御意ニ付罷出奉拝候、但常之衣服半上下着し罷出候故其儘ニ而罷出候、了念、快遊、三説も其次ニ罷出奉拝候

一 御勤過御齋出、扨市十良其外之衆御用之儀雲蓋院へ相談有之ニ付、早昼ニ罷成候故、直ニ昼之御勤も右之僧衆被相勤候、雲蓋院ハ御用之障次第朝之御勤ニ迄可罷出との儀ニ候へ共、右之様子故直ニ兩時之御勤被致候、雲蓋院退出以後拙者共昼過ニ帰宿仕候、尤今晚之御勤も有之筈ニ候へ共、一日ニ一度つ、可罷出と隠居衆と申合候故、今晚ハ不罷出候

一 帯刀、平右衛門ハ今朝之御勤過候而之以後罷出候、昼之御勤之節ハ早帰り申候哉、其節も不罷出候

同十三日

今朝五時分ニ左京様御新宅へ御出被成候、雲蓋院も其節被罷出候、玉泉院御連候少式も罷出候、左京様御配膳被遊御勤御座候、拙者儀其節罷出奉拝候、三説も罷出候、御勤相濟御齋過候而拙者儀四時分ニ帰宿仕候、主税助をも召連罷出候

一 帯刀ハ御齋過罷出候、平右衛門ハ未罷出候、快遊ハ御齋過罷出候、了念ハ風氣故不罷出候

同十四日

今朝五前ニ罷出候処ニ早雲蓋院御出候、頓而左京様御配膳被遊御勤御座候、其以後雲蓋院へ御齋出申候、大正院其外

ニ一人出家衆御座候、御齋相濟候と、則帰宿仕候

一 今朝も主税助召連罷出、何も同前ニ御尊骸為奉拝候

一 最早今晚ハ罷出間布と存候へ共、今晚ハ御年越ニ而例年罷出、御祝之御膳之上ニ罷出、御祝儀申上候事存出、未御尊骸御新宅ニ被成御座候ニ付罷出候処ニ、能時分ニ而左京様御配膳被遊御勤濟候而、御尊骸之御前へ罷出奉拝、古之御儀存出一入感涙をなかし帰宿仕候

同十五日

今朝五前ニ罷出候処ニ早雲蓋院御出候、頓而左京様御配膳

被遊御勤御座候、其以後雲蓋院へ御齋出申候、玉泉院、少式御連候御齋相濟候と、則帰宿仕候

一 今朝も主税助召連罷出、何も同前ニ御尊骸為奉拝候、古之十五日御礼存出し、一入感涙をなかし帰宿仕候

同十六日

無程今日ハ一七日ニ被為相当候ニ付而、今早天ニ権五郎、主税助召連罷出候、雲蓋院御出、左京様御配膳被遊候節御勤御座候、頃之今今日ハ久敷御法事御座候、右相濟候以後奉拝、権五郎、主税助ニも為奉拝候、扱御齋出申候、左京様御前へ拙者儀被召出、市十など部屋ニ而もしばらく語り、四前ニ帰宿仕候

一 市十二少用所も御座候、第一今日之儀ニ御座候故、又七前ニ御新宅へ罷出候処ニ能御時分ニ而、左京様御配膳被遊御勤御座候節ニ而致伺公罷有、扱市十としばらく語り、七半時分ニ帰宿仕候

同十七日 夜ニ入雨

今朝五前ニ主税助召連罷出候、雲蓋院御出、頓而左京様御配膳被遊候、御勤相濟候而拙者共も罷出奉拝候、御齋出候時分拙者儀ハ御新宅罷出明王院へ参、御さしかけ御かり屋

之様子など見申、四前ニ帰宿仕候

一大殿様御気色悪布被成御座候段江戸へ相聞、其段達上聞、去十一日為上使板倉内膳正殿を以御国へ之御暇出、十二日ニ御登城被遊、同日申ノ刻ニ江戸御發駕被遊御上リ被為成候処ニ、同十三日於三島從左京様之御使西村弥市兵衛致御目見、大殿様御逝去之段殿様違御耳申候由、今日相聞へ申候

同十八日 地震日ノ内四度、時々小雨

今朝五前ニ罷出候処ニ雲蓋院も御出候、頓而左京様御配膳被遊御勤御座候、御法事相濟拙者共も奉拝候、其以後御齋出候節、四前ニ帰宿仕候

一今朝六半時分爰元ニ而ハ珍布能程之地しん仕候、其以後四過ニも少つ、兩度地震、又昼過ニ一度地震仕候、雨もふり申川口之波影布なり申候

同十九日

今朝五前ニ罷出候処ニ雲蓋院も御出候、頓而左京様御配膳被遊御勤御座候、御法事相濟拙者共も奉拝候、其以後御齋出候節、四前ニ帰宿仕候

一毘沙門堂御門跡、昨晚御当着直ニ雲蓋院へ被成御座候ニ付、

先以使者申上候、今日御見廻可申と存候処ニ、今朝ハ右之通御新宅へ罷出候ニ付延引仕候処ニ、昼時分御新宅へ御出可被成由ニ付、四過ニ又御新宅へ罷出候処ニ、近日殿様御着座之由ニ御座候間、其上ニ御出可被成由明王院迄御越候而、左京様へ被仰越候ニ付而、則御新宅ヨ直ニ明王院へ参毘門主へ懸御目、昼時分ニ帰宿仕候

一殿様昨十八日松坂へ御着座被成候由、明後廿一日爰元へ可被為入之由今日申來候、就夫毘門主今日御新宅へ御出之儀御延引也

同廿日

今朝五前ニ罷出候処ニ雲蓋院も御出候、頓而左京様御配膳被遊御勤御座候、御法事相濟候而拙者共も奉拝候、主税助儀頃風引申候故、此二三日ハ召連不罷出候、扱御齋出候節、四前ニ帰宿仕候

一殿様明日爰元へ御着の由昨日申來候由ニ候へ共、今夜九時分ニ可被為入之由、今朝御左右御座候由

一殿様直ニ御新宅へ可被為入との御様子申來ニ付、拙者共日暮候而御新宅へ罷出、夜半過迄罷有候へ共、爾と御時分知不申候ニ付先退出仕候処ニ、頓而可被為入様ニ御左右御座

候ニ付、追付罷出候処ニ、八半時分ニ御新宅へ被為入、則御色ニ被召替御棺御拜被遊御りんぢう之御座敷をも御覽被遊、旁御愁歎其感も無御座候、尤左京様へ御対面被遊、右御同意也

一何とそ御尊躰御拜被遊度被思召候、如何可有之やと何もニ御意御座候ニ付、最早ヶ様ニとくと認奉り候上ハ、如何可有御座と雲蓋院被申候、弥明日相尋可申と、何も御あいさつ申上候故、御残念の由御意被為成御愁傷不大形候

一今晚直ニ御新宅ニ御泊可被遊と思召候、雲蓋院ハ無用と被申候へ共、儒者などハ其作法有之由申候、如何と何もニ御尋被為成候ニ付、尤儒之上ニ左様之儀も可有御座候へ共、雲蓋院右之通ニ被申、其上下々ニ而も如何と奉存候旨申上候ニ付而御城へ被為入候、夫分何も御城へ罷上、七時分ニ帰宿仕候

一光君様今辰ノ刻御平産、殊ニ若公様御誕生之由、京都分申来

一少用所御座候ニ付、今晚私宅へ快遊、三説御出給候様ニと申候ニ付、七過分被參暮合ニ歸り被申候

同廿一日 七時分分小雨、夜ニ入候而も雨

今早天ニ権五郎召連御城へ罷上り、御用人衆ニ逢申、先宿所へ罷帰、扱五前ニ主税助召連御新宅へ罷出、殿様被為入候を相待罷有、入御之節主税助も致御目見候

一殿様五過ニ御新宅へ被為入御配膳被遊候、雲蓋院被出御勤御座候、左京様も右之御様子也、夫分直ニ御新宅ニ緩々と被為成御座候

一昼時分ニ毘沙門堂御門跡御出候、御対面被遊、扱御門主御廻向御座候、其以前ニ昼之御配膳をも殿様御勤被遊候、左京様ニも右之御様子也

一毘門主御帰以後、昼過ニ殿様御城へ被為入候、拙者共其御跡ニ帰宿仕候

一如院様分爲御使者宮崎市右衛門殿御越、登城可有由申来候ニ付、拙者儀又追付御城へ罷上候処ニ、御宿ハ対馬守宿所ニ而御馳走など御座候、未間可有御座由ニ付、其内殿様御新宅へ被為成御座、晩之御配膳被遊候、左京様も右之御様子也

一宮崎市右衛門殿へ御使御馳走旁水野平右衛門被遣候処ニ、市右衛門殿、平右衛門ニ御申候ハ、登城仕候とも御目見ハ致間布候、左候へハ如院様御穢ニ罷成候由、御寺へ御香奠

も御座候間、御寺へ持參可仕候、是も御位牌奉拝儀ハ右同断ニ而罷成候由御申間候ニ付、其段平右衛門御新宅へ參申上候へハ、左候ハ、登城も御無用ニ被成候様ニ、御香奠をも對馬守家ニ而、平右衛門請取候様ニ被仰付被遣、市右衛門殿登城も無之、尤御寺へも不被參候、御香奠ハ銀五拾枚也

一 右之内於御新宅大殿様御書置之御書付とも、殿様御拜見被遊、御落涙其感も無御座候、左京様其御座ニ被成御座御同意也、其節帶刀、拙者御前江被召出、是非を不弁仕合也、扱右御書付入申候箱ニ帶刀ニ不申被仰付、松下左五之丞、畔田半右衛門兩人ニ御預ケ置被為成、扱七時分ニ御城へ被為入候、其御跡ニ拙者儀帰宿仕候

同廿二日

殿様今朝五時分ニ御新宅へ被為入候、雲蓋院被參御勤御座候而殿様御配膳被遊候、左京様ニも右之御様子也、御法事相濟候而之以後、拙者共も奉拝候

一 殿様直ニ御新宅ニ被為成御座、昼之御配膳被遊、昼過ニ御退出被為成候、左京様ニも右之御様子也、拙者儀今朝五前ニ罷出、御帰以後帰宿仕候

一 殿様又今晚七前ニ御新宅へ被為入御配膳被遊、七過ニ御退出被遊候、左京様ニも右同御様子也

一 御棺明曉明王院へ御出被為成候ニ付而、今晚八過より権五郎、主稅助召連御新宅へ罷出候、殿様被為入候節御目見致さ七、則兩人を八宿へ帰し、拙者儀ハ殿様御帰被為成候以後、帰宿仕候

同廿三日 終日雨

御尊躰今曉七過ニ明王院へ御移り被為成候、其前ニ殿様御新宅へ被為入御見送り被遊候、左京様御同意也、雲蓋院被參候、扱御供之様子、慰斗めニ上下ニ而、いかにもかろく大かた常之御供数ほと也、拙者共も致御供候、尤慰斗めニ上下着し申候

一 明王院へ被為入御勤御座候而、殿様、左京様御配膳御焼香被遊、御法事相濟候と御退出被為成候、其御跡ニ帶刀、拙者なども奉拝、拙者儀ハ五前ニ帰宿仕候

一 今日ハ終日諸士段々奉拝候様ニ被仰付、其通ニ何も奉拝候、今早天夕七時分迄ニ相濟申候

一 殿様今晚七過ニ又御參詣御法事御聽聞被為成、御配膳御焼香被遊御退出被為成候、拙者儀七時分ニ罷出、右御法事相

濟候以後又奉拜、暮合ニ帰宿仕候処ニ、尾州様、中将様、摂津守様御使者御座候而、拙者式ニも御意御座候ニ付而、右御使者衆之宿へ参、御意之段承御使者衆迄御礼申上、六半前ニ帰宿仕候

一昨夜八時分雨ふり出し、終日雨ふり申候、但御棺出御之時分ハ小雨也

同廿四日

今晚殿様明王院へ被為成御座、御配膳御焼香被遊候、左京様同御様子ニ而夜明前ニ御退出被遊候、拙者儀八半時分明王院へ致伺公、御法事聴聞仕、右御退出以後夜明方ニ帰宿仕候

一大殿様御逝去ニ付、为上使石川美作守殿今朝明六時分ニ水野対馬守宅へ御着、則拙者共出合申御あいさつ申候

一上使六半時分ニ御登城御座之間ニ而御対面被遊候、左京様へも則上意之旨美作殿被仰渡候、御振廻も出不申則上使御退出也、御送り御迎も無御座、万事常と相替り御馳走も無御座候、から門之外迄帯刀、拙者、丹波、若狭、平右衛門五人斗御迎御送り被仰付候、御広間之ゑんかわニ大組衆、番頭衆など斗罷有候

一上使対馬守宅へ御帰被成、後段吸物など出、頓而御立被成候、今朝も対馬守宅ニ而ハ御料理出申候、但精進之御料理也、上使ふくさ之時服ニ半上下御召候、此方も慰斗目ニ半上下着シ申候、右ハ大和守殿御指図之由

一殿様、左京様ニハ御色之呉服、同御半上下被為召候

一御棺今朝六半時分ニ明王院ヲ出御被為成候、御やとい之衆中御供也、從殿様、中川七左衛門御指添路次之なん所へ

御越被為成候度ことニ御注進申上候様ニと被仰付候

一上使御立之節も拙者共対馬守宅へ参、御暇乞申門外迄罷出候、夫々直ニ宿へ参致支度長保寺へ可参と存候処ニ、何も被為召又御城へ罷上り候処ニ、結構成上意之旨被仰聞御奉書をも御見せ被成候、扱宿仕早々支度いたし、四時分ニ罷出、八時分ニ浜中へ参着仕、直ニ御寺へ致伺公、御廟之御様子など致拜見、浜中之宿へ参支度仕候

一殿様七時分ニ浜中へ御着、直ニ御宿坊へ被為入候、其節致御目見候

一日暮候而御寺ニ而御法事移り申候、毘門主御執行也、扱殿様、左京様御焼香被遊、六半時分ニ御棺御寺ヲ御出被成、御廟江被成御座候内、殿様、左京様御供被遊万事御式法也、

尤御色被為召候、拙者式大紋着シ御供仕候、其外布衣之衆又ハ慰斗めニ長袴或ハ慰斗め半袴也

一御棺御廟へ御直り被為成候而御膳出家衆備被申、扱殿様、

左京様御焼香被遊候、其御跡へ御一門様方之御名代罷出致御焼香候、其以後毘門主御引導之御法事御座候而毘門主御退出、其以後殿様、左京様ニも御宿坊へ被為入候、拙者

式も御跡之帰宿仕候、中々絶言語申候御様子ニ而諸人落

涙仕迄ニ候

一殿様今晚ハ御一宿被遊、明朝御焼香被遊度由雲蓋院へ御尋被成候処ニ、其段御無用ニ被遊可然由毘門主も被仰候、御残多儀ハ千々万々ニ而可有御座候間、明日も御残多被思召候儀ハ御同意ニ而可有御座候、左候へハいつをかぎりとも難被遊御事ニ御座候、惣而ケ様之儀ハ今晚をかぎりニ被遊、御退出被成物ニ而御座候由再三立而被申上候、拙者式ニも御尋御座候ニ付、右雲蓋院被申上候通、尤奉存之旨申上候、就夫今晚御城江被為入候、左京様ニも同御様子也、拙者儀御跡之夜ルノ四時分ニ浜中罷出、八半時分ニ帰宿仕候

同廿五日

今朝四時分ニ権五郎召連致登城、今朝之御機嫌被為替御儀

も無御座哉と奉伺候、其以後弥三右衛門を以拙者共ニ被仰聞候ハ、今日長保寺へ御參詣被遊度被為思召候へとも、昨日雲蓋院被申上候通ニ御座候へハ、結局如何ニ被思召候間、番頭之内御使ニ而御焼香御上ケ可被成と被思召之旨被仰聞候、乍恐御尤至極成由帶刀、拙者御請申上候、扱其以後拙者ハ頓而退出仕候

同廿六日

殿様今朝四時分ニ明王院へ御參詣御配膳被遊候、左京様同御様子也、扱御法事初り申候、尤毘門主御執行也、山門之被參候出家衆双殿院も夜前參着、其外当所之出家衆也、御法事相濟、殿様、左京様御焼香被遊、昼時分ニ御退出被為成候、拙者儀今朝五過ニ罷出、御退出以後明王院之直ニ御城へ罷上り、今日之御法事初申候処ニ天氣迄能御座候、御機嫌弥被為替御儀も無御座、御膳も被召上候哉と奉伺、昼過ニ帰宿仕候

一今朝左京様へ致伺公御機嫌奉伺、夫之明王院へ伺公いたし候

同廿七日 終日雨

殿様昨日之通、今朝四時分ニ明王院へ御參詣御配膳被遊候、

左京様同御様子也、扱御法事初ル、山門今諷經として正覚院御越候ニ付而、幸之儀と今日之御法事正覚院御執行候、扱殿様、左京様御焼香被遊御退出被為成候、其以後御名代之衆罷出奉拝、扱帶刀、拙者何も罷出奉拝、扱諸士数多罷出奉拝候、右相濟八前ニ帰宿仕候

同廿八日

殿様昨日之通、今朝四時分ニ明王院へ御參詣御配膳被遊候、左京様ニも右之御様子也、扱御法事初り申候、毘門主御執行也、今日ハ左京様被遊候御法事也、扱御焼香被遊殿様、左京様御退出被為成候、其御跡ニ毘門主御經御進納候而御焼香被成候、扱何も様之御名代衆罷出奉拝、其以後頃之通拙者共罷出奉拝、其外何も罷出奉拝候

一殿様御退出以後、権五郎、主税助召寄せ何も之拝相濟候、以後兩人之悴をも出し為奉拝、召連退出仕候

一拙者ハ直ニ致登城、今日之御法事天气迄能相濟申候段御用達衆ニ申達、昼過ニ帰宿仕候

一毘門主最早明日御帰被成候ニ付、今七時分ニ宿罷出、和歌へ參、御暇乞申上候、但引茶川岸共持參仕候、懸御目得御意、日ノ入前ニ帰宿仕候

同廿九日

今朝五時分明王院ニ而頓写初ル、其内宮本勾当平家語ル、紅葉、慈心坊、常政三局也、四過ニ頓写相濟申候

一殿様昼前ニ御參詣御配膳被遊候、左京様同御様子也、扱御法事初り昼過ニ相濟、扱殿様、左京様御焼香被遊御退出被為成候、其以後安宮様御香奠上り、御名代ニ而御焼香有、長福様、光君様、ねい御姫様、次郎吉様も御香奠上り、御名代ニ而御焼香有、扱拙者共頃之通罷出奉拝、其外何も罷出奉拝候、八前ニ帰宿仕候

一今日之御法事ハ安宮様被遊候由、今晚之御法事ハ因幡奥様被遊候由

二月朔日

今日ハ諷經衆多ク御座候ニ付而、朝晩御經御勤也、就夫殿様今晚七時分ニ御參詣御配膳被遊候、左京様ニも同御様子也、扱御經御勤相濟、御焼香被遊御退出被為成候、拙者儀今朝四前ニ致登城御機嫌奉伺、扱今晚七前ニ明王院へ致候公、御退出以後御名代衆御拝相濟候、以後此中のごとく拙者共罷出奉拝、其外之衆も罷出奉拝候

一今晩西之御丸へも罷出、左京様御機嫌奉伺候処ニ被召出致御目見、夫分明王院へ致伺公右之通相勤、日ノ入前ニ帰宿仕候

同二日 時々雨風吹

今日も諷経衆多ク御座候ニ付而、朝晩御経御勤也、就夫殿様今晩七時分ニ御参詣御配膳被遊候、左京様ニも同御様子也、扱御経御勤相濟、御焼香被遊御退出被為成候、拙者儀今晩七前ニ明王院へ致伺公、御退出以後御名代衆御拝相濟候以後、此中之ことく拙者共罷出奉拝、其外之衆も罷出奉拝候、右相濟七半時分ニ帰宿仕候

同三日

殿様今朝ハ五半時分ニ明王院へ被為成御配膳被遊候、左京様同御様子也、御法事ハゑんどんかい雲蓋院被致執行候、右御法事相濟、殿様、左京様御焼香被遊御退出被為成候
一今日之御法事御松姫様被遊候、就夫御松姫様之御名代同出、御焼香いたし御香奠上り申候、御子様方之御名代同御焼香いたし御香奠上り申候、其外之御名代衆御拝斗也
一右之御跡ニ帯刀、拙者、丹波、若狭、平右衛門、松之助罷出奉拝、御香奠指上ケ申候、拙者などハ銀三枚つ、奉獻候、

市十郎、平次右衛門などハ銀二枚つ、指上ケ申候
一夫分何も罷出奉拝候、御香奠之品々有之由、扱何も之拝迷相濟候以後、権五郎銀二枚、主税助銀一枚奉獻候、扱拙者儀昼前ニ悴とも召連帰宿仕候

一御位牌今晩七時分ニ和歌大相院へ被成御座候筈ニ御座候故、拙者儀八半時分ニ罷出、大相院へ致伺公罷有候
一御位牌七過ニ大相院へ被為入候ニ付御迎ニ罷出、大相院へ被為入候、奉御供候了念、快遊、三説も同事也
一御供ニハ市十郎、平次右衛門其外御近習衆斗也

一從殿様為御名代帯刀御上り被為成御名代之御焼香相勤申候、左京様ハ九兵衛御上り被成御焼香相勤申候、右之段相濟拙者儀罷出奉拝候、拙者儀大相院之直ニ御城へ罷上り、今日之御法事天キ迄能相濟、御位牌大相院へ被為入候旨大沢善右衛門方ニ申達、暮合ニ帰宿仕候

一昨晚方之夜中殊外之大雨風も吹申候へ共、今朝之透と青天いかにものどかニ而諸人奉感候

同四日

殿様今朝四前ニ大相院へ御参詣被遊候由、左京様ニも御参詣被為成候由、扱拙者共儀ハ心次第二参詣仕候様ニと御意

之旨、小倉惣兵方今夜前被申聞候内へ今朝も參詣可仕と奉

存候へ共、右之通扱又拙者儀ハ昨晚參詣仕候、了念、快遊、

三説も今朝ハ延引之由承候ニ付、拙者も今朝ハ伺公不仕候

同五日

今朝四前ニ致登城候処ニ、頓而御前へ被召出致御目見、し

ばらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一此度之為御悔従水戸様為御使者太田主水被為指越候、就夫

主水宿所へ見廻申候処ニ、水戸様御意之段拙者ニも被申聞

候、御請ハ憚入候、可然様ニ御取成頼入候旨主水へ申達、

しばらく語り、昼過ニ帰宿仕候

一主水方御城へハ不被罷出、御取次を以御口上被為聞、久野

丹波守を以御返事被迎越、頓而主水爰元被罷立候

同六日

今朝四前ニ登城仕候処ニ、頓而致御目見しばらく御前ニ罷

有、四過ニ帰宿仕候

一光君様御産後御不例ニ被成御座、中川七左衛門ニ御医者な

と被指添、一昨々日被遣候程の儀ニ御座候処ニ、去三日分

五日之朝迄打つ、き御気色能被成御座候由、今昼過ニ申来

候由、就夫為御悦又八時分ニ罷出、弥三左、治兵、平太ニ

逢申、則帰宿仕候

同七日 時々小雨

従日門様為御使僧靈山院御越、御経被為贈候、就夫拙者式

ニも忝御意被成下、円覚院、觀理院分爲御意御状御越候、

昨晚和歌江御着、和合院を以右之旨御申聞候ニ付而、昨晚

ハ夜ニ入候故、先以使者申達、今朝四過ニ罷出、和歌先大

相院へ致伺公奉拜、扱雲蓋院へ參候処ニ円成院寺ニ御入候

ニ付、則又嚴院同道ニ而參候処ニ、拙者參候ヲ御聞、早靈

山院御出、天神之前ニ而懸御目候ニ付、冷中之儀ニ候間御

宿坊へ可參由申候へ共、追付御立候ニ付、御取込候旨立而

御断故、則沙次脇之芝ニ而過分難有奉存候旨具ニ御札申上

候

一上野御一山分爲代僧松林院御越、是又夜前和合院ニ口上御

申越、凌雲院僧正、旦那院僧正、円覚院分之状御越候、是

も靈山院と同道ニ而同所ニ而逢申候ニ付、則是へも礼申達

候、靈山院、松林院へ則致暇乞、昼過ニ帰宿仕候

一右之儀ニ付、帯刀、丹波、若狭所へ御意御座候由、円覚院、

觀理院分状も參候由、然所ニ拙者ニハ各別ニ右之仕合、別

而過分難有仕合也

一 今晩岡野平太私宅へ被參、緩々と語り被申候、内々平太へ物語可申と存候儀をも有増語り申候、日暮候而被參、四時分ニ帰リ被申候

同八日 終日雨

殿様今朝五過ニ大相院へ御參詣御焼香被遊、追付御帰被為成候、左京様ニも同御様子也、拙者儀今朝五前ニ大相院へ致伺公御帰以後奉拜、夫々養珠寺へ參詣仕、昼前ニ帰宿仕候、当年ハ御逝去故今日始而養珠寺へ參詣仕候

一 光君様御気色五日分又御指筈被為成候由申來候ニ付、八前ニ致登城弥三左、治兵ニ逢申、追付帰宿仕候

同九日 時々小雨

光君様御気色以之外之由申來候ニ付而、今朝五時分ニ致登城候処ニ、頓而御目見仕、四時分ニ帰宿いたし候

一 光君様昨八日酉ノ刻御逝去之由、今八時分ニ申來候ニ付、則登城いたし候処ニ、頓而致御目見しはらく御城ニ罷有、七時分ニ帰宿仕候

一 光君様御事ニ付、今晚左京様へ致伺公候、終日御新宅ニ被成御座候ニ付、先九兵所へ參、しはらく語り、日暮候而御帰之上西之御丸へ罷出候処ニ、御前へ被召出しはらく御咄

之御あいさつ申上、五時分ニ帰宿仕候

同十日

殿様今朝五時分ニ出御被遊、長保寺へ御參詣被為成候、拙者儀今朝七過ニ宿罷出、浜中へ致伺公候、五過ニ參着仕、支度いたし四過ニ御寺へ罷出、御着ヲ相待罷有候

一 殿様先御宿坊へ被為入、追付御寺へ御參詣御焼香被遊、扱御廟へ御參詣被為成候、左京様同御様子也

一 御石塔も見事ニ立申候、御廻り之御いがきハ未出来不申候、殿様御下向之御跡ニ而拙者共も奉拜、扱御寺へ罷戻り御位牌奉拜候

一 殿様、左京様昼過ニ長保寺御立被為成候、拙者など御跡ニ罷立、七過ニ帰宿仕候

一 今日ハ帯刀御供之筈ニ而浜中へ罷越候、拙者儀ハ御供之御役も不被仰付候ニ付而、昨日大沢善右衛門を頼、參詣仕度之旨申上候処ニ致伺公候様ニと被仰出候ニ付、右之通也

同十一日

今朝四前ニ登城いたし候処ニ、頓而致御目見しはらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一 双殿院、謹光院近日爰元可被罷立由ニ付、今晚私宅ニ而非

時を申候、了法寺相伴、海安、宗佐あいさつニ頼申候、昼過ニ被參、七時分ニ帰り被申候、謹光院ハ明日被罷立候ニ付、則暇乞仕候、双巖院ハ十六日ニ立被申之由、内々ハ是も明日辺可被罷立由ニ付、右之通也

同十二日

御用御座候間、今朝五時分ニ登城可致由、昨晚水野平右方方被申越候ニ付、其節致登城候、御前へも両度迄罷出候、市十良、平次右衛門、久右衛門など罷出候、畔田半右衛門御書物持參仕罷出候、治兵衛、弥三左衛門、平大夫なども寄合相談御座候、尤帶刀、平右衛門、拙者も罷有候、五時分ニ登城いたし、昼過ニ帰宿仕候

同十三日 終日雨

御用御座候間、今朝五時分ニ登城可致由、昨晚水野平右方方被申越候ニ付、其節登城いたし候処ニ、御前へ被召出しばらく罷有候、市十郎、平次右衛門、久右衛門など罷出候、治兵衛、弥三左衛門、平大夫寄合相談御座候、尤帶刀、若狭、平右衛門、拙者も罷有候、五時分ニ登城いたし、昼時分ニ帰宿仕候

一左京様先日疱瘡之薬之儀御咄被為成候、其御薬法御書付被

成拙者ニ被下置候旨ニ而、菅沼九兵衛ニ御渡し被為成候とて、今晚八時分ニ私宅へ持參被申候ニ付頂戴仕、暮合ニ九兵所迄參、過分冥加至極成由御礼申置候、九兵ハ西の御丸ニ被有之候ニ付、右之通也

同十四日 昼時分の雨

大殿様方殿様へ被進候御遺物、今日原田市十郎、加納平次右衛門御城へ持參仕指上申候、其品々
一大御所様御自筆之御いろは、定家ノ近代集歌、青地御香炉、寺沢定宗御脇指、ひやうたんの御茶入、尾州様方被進候御系図、朝鮮王之書翰、はいかつき之御天目、あさねかみ之御香炉、若狭盆、算山御茶壺、佐和山御茶壺、清正記、以上十三色也

一江雪左文字ノ御腰物、心経氏満筆、長福様へ、是ハ頓而松平九郎左衛門為御使江戸へ被遣候ニ付持參仕、江戸ニ而指上申筈
一兼則之御腰物、次郎吉様へ被進候、是ハ今日御城ニ而御頂戴被遊候

一左京様被進候御道具も今日殿様へ指上候而之以後、右兩人持參仕指上申筈、其品々

一大御所様御自筆山たか見え色紙御懸物、同分國中御懸物、同すてこ御懸物、同本のつめ御表具なし、徳善院奥宗、大般若御茶壺、有馬御茶壺、呂宗御茶壺、新渡御茶壺三、龍測御硯箱、以上十色也

一 公方様へ塞翁御掛物、御台様へ葛細道御硯箱、是ハ頓而松平九郎左衛門を以江戸へ被遣、御上被為成候、此外御一門様方へ之御遺物品々多ク御座候故書付不申候、右之儀其外御用等御座候而、拙者など両度迄御前へ被召出候、今朝五過ニ登城いたし、昼過ニ帰宿仕候

同十五日

上使松平山城守殿、昨夜八時分ニ水野対馬守宅へ御着、拙者儀昨夜ふせらず罷有、右之前方ニ御宿迄參、門外迄罷出、扱御入候と良しバラく御あいさつ申、七時分ニ帰宿仕、行水いたし長袴着シ、七半時分ニ宿罷出、和歌大相院へ伺公仕候、其節夜ほのく明也

一 殿様追付大相院へ被為成、先御焼香被遊、上使御參詣ヲ御待被為成候、扱上使六半前ニ竹本丹後家へ御入、長袴御召候而大相院へ御參詣也、拙者共門内迄御迎ニ罷出候、帯刀御案内いたし罷越候、扱御寺へ御入候而、殿様御対面被遊、

上意御聞被成奉書御請取被為成候、從御台様も女中之奉書御座候而御請取被為成候

一 右相済雲蓋院罷出、上使御仏前江御出御焼香被成候、其節殿様御出被成上使へ御礼被遊候、公方様之御香奠銀千枚、御台様之御香奠銀五拾枚也、兼而之御仏前ニ直し置申候、扱右御焼香相済、上使自分之焼香被成候、香奠銀五枚也、扱上使退出被成候ニ付、殿様御出御暇乞被遊候、但御寺の外へ之御迎御送りハ不被遊候

一 上使御帰ニも丹後宅へ御寄、半袴ニ御召替和歌山へ御帰候、扱殿様其御跡之御退出被遊候、拙者儀御立之御跡ニ而御仏前奉拝、扱御跡ニ付先帰宿仕、半袴着し御城へ罷上候

一 上使先対馬守宅へ御帰、御馳走御座候而五過ニ登城被成候、先日上使御座候時之ことく、御座之間ニ而御対面上意之旨被為聞候、追付上使御立被成候、是も先日之通御迎御送りハ不被遊候、拙者共之御迎御送りも先日之通御から門外迄罷出候、其外之衆も先日之通也

一 上使対馬守宅へも御寄不被成、直ニ御帰被成候ニ付、拙者共も対馬守門外ニ而御暇乞申、夫之御城へ罷上り、首尾能上使御立被成候旨御用人衆迄申達、四時分ニ帰宿仕候

一 今朝長保寺へ御花桶指上申候、使梅原弥大夫

一 従尾州様殿様御気色為御見廻志水治右衛門と申仁御越被成候、拙者共にも御意御座候旨承候ニ付、則右之宿へ參、御

意之段承可然様ニ頼入候旨治右衛門殿へ申達、帰宿仕候

一 光君様御尊骸、京都今晩夜ニ入候而報恩寺へ被為入候、

洪谷角右衛門被仰付京都御供仕候、今度上使御越ニ付、

路次御よけ被成、奈良海道被為成御座候、拙者共日ノ入相

分報恩寺へ罷出、御尊骸御着之時分奉拜、五過ニ帰宿仕候

同十六日

今朝四時分ニ致登城候処ニ頓而御前へ被召出、しばらく罷

有、昼時分ニ帰宿仕候

一 左京様明日爰元御発駕江戸御參勤被為成候ニ付、今七時分

ニ西之御丸へ致伺候処ニ、御前へ被召出致御目見忝仕合

ニ而、夫今昔沼九兵所へ暇乞ニ立寄申候、西之御丸ニ九兵

被居候ニ付半之助方ニ申置、則罷帰候

同十七日 終日雨

一 光君様御葬礼、昨晚報恩寺ニ而相濟、今日御法事初り申

候ニ付、今朝六半前ニ報恩寺へ罷出、御法事相濟候以後奉

拜、五時分ニ帰宿仕候、拙者儀頃一入行歩不自由ニ有之ニ

付、今日ハ登城不仕候、左京様今朝未明ニ爰元御発駕被遊、

江戸御參勤被為成候、就夫何も御見送り罷出候儀無用ニ被

成度由、左京様被仰上候ニ付而、左候ハ、御断の通何も

罷出候儀致無用候様ニと被仰出候ニ付而、拙者共も不罷出

候

同十八日 夜中大雨

讚岐守様、右京様御香奠之為御使大須加小兵衛、戸祭主

水と申仁被參候ニ付而、今朝四前ニ右両人之宿へ見廻候而

逢申、夫今先致帰宿、かたきぬ取羽織着し、則御城へ罷上

り候

一 御位牌之御様子毘門主御返事之通、雲蓋院登城ニ而被申

上候ニ付、則御対面被遊御位牌之御本二つノ内一つ御極、

雲蓋院へ被仰渡候、其節拙者なども御前へ被召出候

一 当四月大猷院様御年忌ニ付、於日光御法事御座候、就夫諸

国今天台宗之出家衆従日門様被召寄候由、就夫当国今和歌

五ヶ坊之内一人、粉川寺中一人、扱了法寺ヲ可被召寄之

旨、日門様被仰出候由申来之旨、今日於御城雲蓋院拙者ニ

被申聞候ニ付而、扱々存寄も無御座、仕合過分難有とも可

申上様無御座候、併其段輕入存候間、尤指進可申とも難申

上御事ニ御座候、幸之御次而御座候間、右之趣殿様被達御耳給候様ニと、拙者も其御次而ニ達慮之段をも申上度旨申

候へハ、尤の儀ニ候とて、則岡野平大夫を以雲蓋院被申上候ニ付而、拙者難有奉存候旨、併輕入存候段申上候へハ、兎角從日門様被仰出次第ニ可仕候旨御意ニ御座候、就夫過分難有奉存之旨、則平大方へ御礼申上、雲蓋院へも可然様ニ御心得、日門様へ被仰上給候様ニ何様參候而、御礼可申達旨申候、扱了法寺へも貴僧が被仰渡可給候、兎角可然様ニ雲蓋院頼入候由申談、昼前ニ帰宿仕候

同十九日

殿様今朝五過ニ報恩寺へ御參詣御焼香被遊、則御帰被為成候、拙者儀今朝六半時分ニ罷出、右之節致御目見、御帰已後御名代衆御焼香相濟候以後罷出奉拜候、御香奠銀子壹枚致献上候、丹後守、若狭守、松之助、其外何も罷出奉拜候、帯刀ハ病氣故不罷出候、拙者儀右相濟、四前ニ帰宿仕候

同廿日

今朝四前ニ罷出候、若狭守も其以後罷出候、頓而御前へ被召出、しばらく罷有御咄之御あいさつ申上候、其後拙者迄被召出、しばらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候、帯刀、丹

波ハ相煩候由ニ而不罷出候

同廿一日 夜中雨

今朝五前ニ養珠寺へ致參詣、夫が妹背山へ致參詣候、幸御近所へ參候故大相院へ致參詣奉拜、それら雲蓋院へ參候、是ハ先日了法寺之儀ニ付、日門様御意之通被申聞候ニ付而、其為御礼參具ニ御礼之段申達、夫が今日ハ二七日ニ被為成候ニ付而、報恩寺へ參詣仕、御位牌御廟をも奉拜、昼前ニ帰宿仕候、右養珠寺が三説老、市兵衛と語り報恩寺迄參候

同廿二日

殿様今朝五過ニ大相院へ御參詣被遊候、拙者儀今朝六半時分ニ致伺公、御帰以後四過ニ帰宿仕候

一 今晚方布施三説被參、しばらく語り帰り被申候

同廿三日

今朝四前ニ致登城候処ニ、頓而被召出ししばらく罷有、御前退出仕候処ニ、又拙者斗被召出、しばらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一 去春於江戸大殿様御老中へ御茶之湯被遊候節、拙者茶杓当分之御用ニ立申候を今日御道具奉行衆が千宗左を以通し被申候、然共市十、平次右迄断申候へ共、兎角拙者手前ニ留

置候様ニと兩人も被申越候ニ付而、伺御意候

同廿四日

今朝大相院へ権五郎、主税助召連致參詣、夫の妹背山へ參

詣仕候、五前ニ罷出、四時分ニ帰宿仕候

一今晚千宗左私宅へ參語り申候

同廿五日

今朝日出時分ニ蓮心寺へ參詣仕、罷歸支度いたし、四時分

ニ致登城候処ニ、頓而被召出しはらく御前ニ罷有、昼前ニ

帰宿仕候

同廿六日

光君様御逝去の儀、去十八日達上聞、不大形御笑止ニ被為

思召之旨、御悔をも可被仰遣候へ共、重而ハ不被仰物之様

ニ被為聞召候間、御使奉書をも致無用、土屋但馬守殿へ水

野対馬守を御呼寄せ、右之趣御申聞候様ニと、上意之由但

馬殿御指図の由是又申來候、拙者儀今朝四時分ニ致登城、

頓而被召出、右之御様子など被仰聞しはらく御前ニ罷有、

昼前ニ帰宿仕候

同廿七日

終日宿有之、替事なし

同廿八日

今朝四前ニ登城いたし候処ニ、頓而被召出しはらく御前ニ

罷有、昼前ニ帰宿仕候、今日於御城原田市十、加納平次右

ニ逢申候故、頓而御雇之衆御目見可有御座候、左候へハ主

税助儀も可仕様ニ各頼入候由、可申談と存候処ニ、右兩人

之衆早退出故不能其儀罷戻り、佐谷勘兵衛為使指越申候、

右兩人之衆御新宅ニ有之候而、直ニ口上御聞委細被得其意

候との返事也

同廿九日 夜ニ入雨

殿様今朝早天ニ長保寺へ御參詣被遊、八時分ニ御歸被為成

候

一從尾州様之御使者成瀬隼人正、従水戸様之御使者鈴木石見

守、中將様之御使者服部小十郎、同御奥様之長谷川市郎

右衛門、普峯院様之安部久左衛門、撰津守様之鈴木兵藏、

出雲守様之見方弥兵衛、右ハ御香奠之為御使者今昼前ニ当

地へ參着、則右之御衆へ拙者儀見廻申、八時分ニ帰宿仕候

一右御使者衆八過ニ大相院へ被參、七半時分ニ被罷歸候、扱

隼人正、石見守、小十郎三人ハ御城へ被罷出候様ニ、御対

面可被成との御事ニ付、何も色々留申候へ共、和歌之直ニ

被罷帰候、拙者儀右之衆登城被申管の由承候ニ付、七過ニ

御城へ罷上り相待申候処ニ、右之通承暮合ニ帰宿仕候、帶

刀儀今日ハ氣相悪布候由ニ而、右御使者衆へハ見廻不申候

へ共、今晚ハ致登城右御使者衆直ニ帰り被申候由、御城へ

注進御座候而之上、帶刀、拙者御前へ被召出、右御使者衆

帰り被申候儀、今日長保寺へ御參詣被遊候儀など被仰聞御

前退出仕候処ニ、又拙者儀被召出しばらく御前ニ罷有、右

之通拙者ハ暮合ニ帰宿仕候

一拙者儀今日長保寺へ之御供可仕儀ニ御座候へ共、右之御使

者衆今日当着の由ニ付、右之通出合申候故今日之御供不仕、

今朝大相院へ致參詣、扱明日長保寺へ悴共召連伺公致度旨

御暇申上候処ニ、參詣仕候様ニと被仰出難有仕合也

同晦日 時々雨

悴共召連今朝卯ノ刻宿罷出長保寺へ致伺公候、先浜中之宿

へ參着、上下着し御寺へ參詣仕候、但御花桶指上申候、昨

晚分雨ふり、右之節迄ふり申候へ共、參詣仕候時分分雨止

御寺へ罷上り候と、則日ノ影さし、御廟江も天氣能致參詣

父子共奉拜、扱宿迄罷帰支度いたし、昼前ニ浜中罷出、七

前ニ和歌山へ罷帰候

三月朔日 終日雨

今朝五過ニ致登城候処ニ、頓而被召出しばらく御前ニ罷有、

其内原田市十郎、加納平次右衛門被召出忝御意ニ而、古加

納快遊、山名快休相勤候御役被仰付候、扱四過ニ帰宿仕候

一今晚日暮候而岡野平太被參、緩々と語り、夜半時分ニ帰り

被申候

同二日 時々雨

今朝六半時分ニ宿罷出、了法寺へ參詣仕候

一御位牌毘沙門堂御門跡被遊、先日被懸御意候ニ付、御中い

んの内奉拜、今朝了法寺へ奉守大師堂へ奉備候、了法寺も

尤の由被申候、今朝了法寺ニ而齋を申候、拙者も齋給、四

過ニ帰宿仕候

一了法寺近日江戸へ被罷下候ニ付而、祝儀又ハ為路銀銀子拾

枚坂田ニ而遣し申候

同三日

今朝五時分ニ権五郎召連致登城候処ニ、頓而被召出致御目

見しばらく御前ニ罷有、扱何も退出仕候処ニ、又拙者斗被

召出良しばらく御前ニ罷有、四時分ニ帰宿仕候

一 正木五郎右衛門儀御目見仕候節ハ、市十郎、平次右衛門同前ニ罷出候様ニと被仰出候旨丹州被申渡候、右之御礼御前ニ而五郎右衛門申上候節、拙者も同意ニ申上候、丹州披露也

一 今日ハ節句ニ而御座候故、何も上下着し罷出候処ニ、今日ハ未御忌之内ニ而御座候間、かたきぬ致無用ニ罷出候様ニと、今朝被仰出候ニ付而奉畏候、併御祝儀之御事ニ而御座候間、拙者共斗ハかたきぬ着し罷出、御目見仕度之旨、弥三左、治兵、平太など迄申達候処ニ、其段立御耳尤ニ被為思召候、併右之通ニ候故御袴をも不被為召候間、弥かたきぬハ致無用候様ニと被仰出候故、何もかたきぬき、袴斗ニ而罷出致御目見候

一 為御使帯刀明日江戸へ罷越候ニ付、暇乞旁ニと朝私宅へ被參候、就夫私等も晩方帯刀方へ暇乞旁ニ參候

同四日 七過分雨、夜ニ入風も吹

殿様今朝御精進被為上候、拙者共も御看一種つ、指上申候、今朝ハ例合はやく五前ニ致登城、頓而致御目見候
一 御膳被召上候、以後帯刀儀江戸へ為御使今昼立ニ仕候故御口上被仰付候、是ハ今度御暇被進御帰国被遊候御礼旁也

一 正木五郎右衛門儀忝御意ニ而、長福様へ御附被為成候旨、殊御加増五百石被下置之旨、御直ニ被仰聞候、則拙者も御前ニ罷有同意ニ過分難有之旨、御礼申上候

一 尾州様、同中将様、水戸様分御使御座候、是ハ最早御精進可被為上との御事ニ而御着品々被進候、何も昼時分ニ被致登城、追付御座之間ニ而御対面被遊、扱御対面所ニ而御振廻被下候、拙者などニも忝御意御座候ニ付、右御使者衆退出以後宿所へ參、御使者衆へ右之御礼申達候

一 夫今久野丹州、渡部若州へ參、正木五郎右衛門忝仕合之御礼申置、夫今宇治屋布へ參、庭など見候而、七時分ニ帰宿仕候

同五日

御雇之衆中御目見御座候節、主税助儀も罷出候様ニ頼入候由、内々市十、平次右迄申入候処ニ、昨日丹州、若州へ右兩人之衆其段被申候処ニ、則昨日達御耳幼少之者の儀ニ御座候間、何時ニ而も拙者罷出候刻召連罷出候様ニと被仰出候旨、丹州、若州分昨晚被申聞候、尤市十、平次右分も被申聞候

一 御雇之衆中、今日登城の由被申聞候ニ付而、今朝五過ニ主

税助召連罷出候処ニ、頓而拙者、若狹守御前へ被召出、市十郎、平次右衛門も罷出致御目見候、主税助儀ハいつニ而も御表へ出御之刻御目見致候様ニと存候処ニ、其刻御前へ被召出少之間ニ成人仕候、未幼少ニ候間ときく罷出候様ニと御懇ニ被為懸御詞候、過分冥加至極成仕合也、其節拙者も御礼申上候

一其以後良しバらく間御座候而、御長ゆるり之間迄出御被遊、御雇之衆中、頭立候衆之分迄御目見御座候、今日ハ御表へ出御不被遊候ニ付而、表向へ罷出候衆ハ御目見無御座候、扨昼前ニ主税助召連帰宿仕候

一丹州、若州、市十、平次右へ、主税助儀、今日首尾能致御目見、殊御懇ニ被為懸御詞重畳忝仕合ニ奉存候、各御肝煎故と存候旨使相添、右四人之衆へ主税助越申候

一拙者儀宇治屋布へ參、庭など申付候、就夫主税助も宇治屋敷へ直ニ參候、食など給候而、七過ニ帰宿仕候

同六日 終日雨

今朝四時分ニ御表何も御目見之御座敷迄出御被遊、御雇之衆、頭立候衆之分御目見御座候、尤御雇之外之衆も御目見御座候、拙者儀今朝四前ニ罷出、頓而被召出しバらく御前

ニ罷有、扨右御目見御座候節迄罷有、昼前ニ帰宿仕候

同七日

頃少腹中気故、今日ハ登城不仕候、四過ニ少御用御座候而、岡野平太私宅へ被參、シバらく語り帰り被申候

同八日 晩方雨

今日ハ日長様はつ之御月忌ニ而於報恩寺御法事も御座候へ共、拙者儀未気色爾と無御座候ニ付參詣不為仕、尤御城へも罷上候、併精進ハ仕罷有候

同九日 八過雨

御位牌今日從長保寺和歌雲蓋院へ御移り被為成候、御迎ニ雲蓋院被參御供被致候由、加納平次右衛門其外之衆御供之由、原田市十郎などハ和歌へ參居被申候由、今日ハ天氣次第御舟ニ而和歌へ被成御座候様ニとの御事ニ御座候故、如何可有御座と奉存候処ニ、今日ハ青天ニ而風も無御座のとなる日和ニ而人々奉感候、和歌へ昼前ニ御着被為成候由一八過又天氣悪布雨もふり出し申候、尚以奉感御事ニ御座候、拙者儀今日ハ和歌へ伺公いたし候ハて不叶儀ニ御座候処ニ、病气故不罷出残念之至ニ御座候、就夫大多和治右衛門和歌へ指越御着之御様子承候、雲蓋院、市十、平次右へ

も右之通治右衛門ニ申越候、拙者儀昨日も今日も精進仕罷有候

同十日 終日雨

今朝雲蓋院ニ而御法事御座候、殿様今朝五過ニ御参詣御焼香御配膳被遊、四過ニ御帰被為成候、拙者儀今朝五前ニ雲蓋院へ致伺公、何も御名代衆御焼香相済候以後罷出奉拜、四半過ニ帰宿仕候

同十一日 時々雨

今朝四前ニ致登城候処ニ、頓而被召出しばらく御前ニ罷有候、正木五郎右衛門末子吉三郎今度五郎右衛門召連罷下、長福様へ御奉公致させ申度奉存候旨、内々願申候処ニ、其段達御耳、左様ニ致候様ニと被仰出、今日若狹守披露ニ而右之御礼五郎右衛門申上候、則拙者も御前ニ罷有同意ニ御礼申上、昼前ニ帰宿仕候

一日暮候而千宗佐私宅へ参語り申候、齋藤源藏、海安も参かり咄被申候

同十二日

今日八日長様三十五日ニ被為当候ニ付、於報恩寺御法事御座候、就夫拙者儀今朝五前ニ致参詣、五過ニ帰宿仕候、尤

今日ハ精進いたし候

一 夫々致支度四時分ニ致登城候処ニ、頓而被召出しばらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

同十三日 七時分雨

今朝五時分ニ権五郎、主税助召連、雲蓋院江致参詣悴共ニ為奉拜候、花桶持参仕指上申候、去九日長保寺云雲蓋院へ被為入候而、未悴とも召連不申候ニ付而今朝右之通也、頓而致退出戻りニ快遊へ見廻、夫々喜右衛門所へ見廻、夫々吹上下屋敷へ立寄申候、右何も悴共同道仕候、扱悴ともをハ直ニ指越、拙者ハ九兵留主見廻候而、昼時分ニ帰宿仕候一 殿様今昼時分ニ明後日上使御着之道筋御覽可被成とて、田井之瀬辺へ被為成候由、拙者ハ右之通故登城不仕候

同十四日

今朝四時分ニ登城いたし候処ニ、頓而被召出しばらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一 正木五郎右衛門末子吉三郎儀、俄今昼時分致御目見候、右拙者致帰宿候以後ニ而候故、最早出合不申候故、吉三郎御目見仕候節ハ御城ニ不罷有候

一 御新宅之御用、今日切ニ仕廻被申候由、市十、平次右被申

候故、内々兩人へ申談置候ニ付而、今昼過ニ拙者儀御新宅へ罷出、御座之間迄致拜見、かんるいせきあへず帰宿仕候、布施三説も被致同道候

一明日為上使堀田対馬守殿御出候、為御礼明後日若狭守江戸へ被遣候筈ニ御座候、左候へハ今日吉三郎致御目見候儀も、若州肝煎ニ而候故、右之礼又ハ暇乞旁八時分ニ參申置、追付帰宿仕候

同十五日

上使堀田対馬守殿今朝六半時分ニ御当着、帶刀所御宿也、殿様如例路次迄御迎御出被成、扱上使御着候と、則御宿へ御見廻被為成候

一追付御城へ御出候様ニと之御使ニ而、五時分ニ御城へ御出候上意之旨御聞被為成、如例御樽肴御拝領被遊候、其以後対馬守殿自分之御礼御座候

一扱御料理出御盃之上ニ而、法成寺代金百五拾貫之御腰物被進候、丹波守持罷出候、御拍子三番御座候、弓八幡、とうぼく、養老之切也、其内拙者共其外罷出、上使之御盃被下候、あまり人多ハ如何との儀ニ而、例ハ八人数すくなく御出し被成候

一扱御困ニ而御茶被進候、扱御座之間へ御通り御盃出、扱又御対面所ニ而御請被仰上上使御立被成候、扱帶刀所へ寄候而四時分ニ上使御帰被成候、又路次迄殿様御送り被為成候、万事御馳走如例天キ迄能、首尾残所無御座相濟申候、拙者儀今朝明六時分ニ帶刀所へ參右相勤、扱帶刀所ハ御城へ罷上り、殿様被為入候節致御目見、今日之御祝儀申上、昼時分ニ帰宿仕候

同十六日

今朝四時分ニ致登城候、昨日上使御馳走天氣迄能相濟申、左京様去八日御登城被遊、首尾能御目見被遊候由申来、旁以目出度御事ニ御座候旨、岡野平太を頼申上候処ニ、頓而御前へ被召出、右之段御満足被遊之旨被仰聞、扱何も御前退出以後、又拙者斗被召出しバラく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

同十七日

頃つ、けて罷出候故一入足痛候ニ付、今日ハ不罷出候、少用所候而昼時分宗佐參、日ノ入相ニ帰り申候

同十八日

今日も未足痛申候ニ付不罷出候、今日八時分ニ市十、平次

右、左五之丞私宅へ見廻被申候ニ付而、料理出し緩々と語り、夜ニ入帰り被申候、与左、海安、宗佐も参語り申候

同十九日

今日も未足痛申候ニ付而不能出候、八時分ニ鴨居善兵、後藤角兵見廻被申候ニ付、料理出し緩々と語り、日暮候而帰り被申候、海安、宗佐、宗波も参語り申候

同廿日

殿様今朝五時分ニ和歌御仏殿へ御参詣被遊候、拙者儀五前ニ和合院迄参、右御供相勤申候、於和合院拙者儀頃行歩不自由ニ有之由、御懇ニ御尋被為成過分忝仕合也

一御帰以後拙者儀雲蓋院へ参、御位牌奉拜、昨日雲蓋院分利生坊為使僧了法寺儀ニ付、円覚院、親理院之状御見せ候礼をも申候而、少之間語り、四前ニ帰宿仕候

同廿一日

殿様今朝五時分ニ養珠寺へ御参詣被遊、夫分妹背山へ御参詣被遊候、拙者儀今朝五前ニ養珠寺へ致伺公、右御供相勤、夫分雲蓋院へ伺公いたし御位牌奉拜、四過ニ帰宿仕候、右妹背山分雲蓋院へハ三説老、市兵衛同道いたし、かちニ而致参詣候

一去年之今日大殿様之御供相勤申候処ニ、今度拙者儀江戸へ之御供相勤御満足ニ被為思召之旨、就夫結構成御意ともニ而、此旨御牌前へ被申上候様ニと於妹背山養珠寺へ被仰聞候、其節主税も拙者そばニ被有之、拙者同前ニ感涙をなかし被申候、誠以拙者身ニ罷成、冥加至極成仕合可申上様無御座候、扱今晚於御新宅御茶被下、其上御盃致頂戴、其上ニ而御指領之御腰物致拝領、重畳過分難有仕合ともニ而御座候キ、其段存出右之御腰物今日ハ指候而致参詣、右之通妹背山、雲蓋院御牌前ニ而心中ニ申上一入存出し、感涙おさへかたく退出仕候

同廿二日 時々雨

今朝四前ニ登城いたし候処ニ、今度於江戸御拝領被遊候御鷹三居、今日始而御覽被為成御頂戴被遊候折節ニ而、則御前へ被召出、右之御鷹とも拝見被仰付しバらく御あいさつ申上、四過ニ帰宿仕候
一久々ニ而今晩岡野平太、小笠原与左同道ニ而私宅へ見廻被申候ニ付、料理出し緩々と語り、夜ニ入帰り被申候、真鍋五郎右衛門、鶴飼海安も被参語り被申候

同廿三日

今朝四前ニ登城いたし候処ニ、頓而被召出致御目見退出仕候処ニ、又拙者被召出しハらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一 昼時分ニ宇治屋布へ参、七時分ニ帰宿、海安も被参候、永庵も参、茶屋ニ而語り申候

同廿四日

殿様今朝五過ニ大知寺へ御参詣被遊、夫々報恩寺へ御参詣被為成候、拙者儀今朝五前ニ罷出、右御供相勤、四過ニ帰宿仕候

一 当年ハ未大知寺へ年頭之祝儀不申候ニ付而、今朝帰宅以後以使者如例銀子壹枚遣し申候

同廿五日

拙者儀今日ハ不罷出候

同廿六日

今日ハ日長様四十九日ニ被為相当於報恩寺ニ御法事御座候ニ付而、拙者儀今朝六半時分ニ致参詣、御法事相濟候以後奉拜、五過ニ帰宿仕候

一 扱支度いたし四時分ニ致登城候処ニ、頓而被召出拙者行歩も能候哉と御尋被為成忝仕合ニ而、昼前ニ帰宿仕候

同廿七日

今日ハ不罷出候

同廿八日

今朝四前ニ致登城候処ニ、頓而被召出首尾能致御目見しバらく御前ニ罷有、四過ニ帰宿仕候、今日ハ久々ニ而娘とも私宅へ参、日暮候而何も帰り申候

同廿九日

今日ハ不罷出候、与左、五郎右、海安、水見など今八時分ハ被参語り被申候、路次を見せ数寄屋ニ而茶振舞、扱夜更帰り被申候、不庵も参候

四月朔日

今朝五過ニ権五郎、主税助召連罷上り候、頓而被召出首尾能致御目見候、悴共ニも被為懸御詞候、拙者なとしバらく御前ニ罷有、四過ニ帰宿仕候

同二日

先日長保寺へ御位牌被為人候以後、今日始而御花指上申候、使岡七郎兵衛指越申候、拙者儀今朝五前ニ坂田へ参詣いたし候、了法寺留主故常福寺昨日ハ参居被申候、少ノ間語り、

四前帰宿いたし候、今日ハ登城不仕宿ニ罷有候

同三日

今朝四時分ニ登城いたし候処ニ、頓而被召出しバらく御前

ニ罷有、何も退出仕候処ニ、又拙者斗被召出しハらく御前

ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一大坂今寿安參、今日致御目見候

同四日

今日ハ不罷出候、昨日約束申候ニ付、寿安今昼私宅へ參候、

隠元、木庵、即非之懸物見せ申候、丹羽七兵衛同道也、し

ハらく語り帰り申候

同五日

今朝四時分ニ致登城候処ニ、頓而被召出しハらく御前ニ罷

有退出仕候処ニ、又拙者儀被召出行歩不自由之段御尋被為

成、能々養生可仕之旨御懇ニ御意被為成、扱拙者儀年罷寄

候間、御門内迄乗物御免可被成と被為思召候処ニ、行歩も

不自由ニ候間、弥右之通乗物被遊御免之旨被仰出重畳過分

難有仕合ニ而致帰宿、則右為御礼久野丹州、水野平右、原

田市十、加納平次右、志賀弥三左、津田治兵へ參、昼過ニ

帰宿仕候、弥三左、治兵ハ右之節御前ニ被有之候ニ付而也

一夜ニ入、与左、海安、水見、郷右衛門、弥平次、佐次右衛

門など右為悦被參緩々と語り、夜半時分ニ帰り被申候

同六日

今朝五前ニ雲蓋院へ致伺公、昨日忝仕合之段御礼申上、四

前ニ帰宿いたし候、扱支度仕四過ニ登城致候処ニ、頓而被

召出しハらく御前ニ罷有候、其節昨日之御礼丹州、平右被

申上御礼申上候、其以後拙者斗御用御座候而罷出候処ニ、

弥昨日被仰聞候通無遠慮乗物ニのり可申之旨、御懇ニ御意

御座候ニ付、重畳過分難有奉存候旨申上、御前退出仕候、

弥三左衛門、治兵衛、平大夫ニも右之通被仰聞候旨、其以

後右之衆被申聞候、再三之御意之段難有仕合也、今朝夕右

之通乗物ニのり可申と何も被存様子ニ候へ共、拙者致遠慮

のり不申候、拙者儀折々罷出候儀ニ御座候間、先そろく

あるき候而達者をもけいこ可仕と存候、併ヶ様ニ御懇成御

意之上ハ何時ニ而ものり可申之旨、今日も於御城丹州、平

右、平次右、平太などへ語り申候而、昼前ニ帰宿仕候

同七日

内々今日ハ罷出間布と存候処ニ、去廿七日於江戸松平陸奥

守殿家老伊達安芸、原田甲斐仕合之儀申来候ニ付、様子を

も可承と存、昼前ニ致登城候処ニ、頓而被召出右之儀など被仰出しハらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一夜ニ入、梅溪、九左衛門など被參語り申候

同八日

今日ハ報恩寺へも參詣いたさず宿ニ罷有候

同九日

今朝四時分ニ罷出候処ニ、頓而被召出しハらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一 藤崎之屋布之儀、百姓迷惑仕地ニ而も無之候間、忝仕合ニ

而致拝領候屋敷ニ而、其上被為懸御腰迄候所ニ而御座候間、重而ハ兎も角も御座候へ、先拙者弥致拝領置申度旨、今日御城ニ而岡野平太ニ物語仕候、御新宅様衆陽山ニ而之屋布の儀も定而頓而何も何とそ可被申上候間、其節拙者も可申上候へ共、拙者儀ハ各別之儀ニ候間、先貴殿迄ケ様ニ申候、右之段何も迄可申達候へ共、左候へハ急度いたしたる様ニ御座候間、無其儀貴殿へ迄頼申候間、いつニ而も被達御耳可給由申入候

一 其節拙者儀未乗物ニのり不申候哉と尋被申候ニ付、未のり不申候由申候へハ、御懇ニ再三御意之上ニ而御座候間、早

々のり可然由被申候ニ付、近日乗初可申と存候由あいさつ仕候へハ、尤之由被申候、左候へハ各御存之通、御直ニ度々被仰聞候儀ニ而各も能々御存之事ニ候間、御目付中迄届申ニも不及儀とハ存候へ共、拙者方々届可申哉と申談候処ニ、最早其段とく御目付中へも申候間、夫迄ニも不及儀ニハ候へ共、拙者念入候通をも又々御目付中へ可申候間、拙者方々届申候儀ハ致無用候様ニと平太被申候ニ付而無其儀候

同十日

殿様今朝五過ニ雲蓋院へ御參詣被遊御拝相濟候、以後如例拙者共も罷出奉拝候、拙者儀今朝六半時分ニ権五郎、主税助召連致伺公、殿様、雲蓋院へ出御之節悴共も致御目見候処ニ、被為懸御詞忝仕合也、扱御帰已後悴共ニも為奉拝、四過ニ悴共召連帰宿仕候

一 内々ハ来廿一日御百ヶ日雲蓋院江悴共も致伺公候様ニと存候へ共、其節ハ御法事御座候而人多ニも可有御座と存、右之通今日召連致伺公候

同十一日

今朝四時分ニ致登城候処ニ、頓而被召出しハらく御前ニ罷

有、昼前ニ帰宿仕候、拙者儀去五日御門内へ乗物御免被遊候へ共、先致遠慮候処ニ、度々之御意一昨日も平大夫申候通ニ候故、今朝始而とけい屋ぐらの下迄、乗物ニ乗難有仕合也

一今朝佐谷平左衛門為替崎山利右衛門江戸へ指越申候

一今晚寿安私宅へよび申候、八時分ニ参候、料理出し緩々と語り、七過ニ帰り申候、丹羽長兵衛同道也、加納十太、三岡水見あいさつによび申候

同十二日 時々雨

今朝岡野平太私宅へ被参被申聞候ハ、拙者藤崎屋布之儀先日申候通、昨晚能御次而御座候ニ付而申上候処ニ、一段尤ニ被為思召候、拙者儀年罷寄候間、折々延氣ニ参候様ニと弥被下置之由、御意之旨被申聞候ニ付而、右為御礼四時分ニ致登城候処、頓而御前へ被召出、則平太披露ニ而右之御礼申上候処ニ、尚以過分忝御意とも也、扨御前ニしはらく罷有、昼前ニ帰宿仕候、尤今日も昨日之通乗物ニのり申候一今晚布施三説私宅へ参、咄可被申との儀、一昨日和歌ニ而雲蓋院御聞候而三説御同道ニ而、今八前ニ私宅へふと御出候、加納快遊も右之通被承被参候、不取敢数寄屋ニ而茶進

之申候、扨勝手へ御出緩々と御咄、日ノ入時分ニ御帰候、快遊、三説も帰り被申候、勝手ニハ与左、水見迄ニ而候一右雲蓋院御出御咄之内、郭公おとづれ申候故、一入之儀と御申候而ゆるくと御咄し候、今日ハ雨ふり申候

同十三日

昨夜江戸分帯刀罷帰、今朝致登城候、拙者儀今朝四時分ニ罷出候処ニ、頓而帯刀御前へ被召出御口上被為聞候、拙者なども其節致御目見しはらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候処ニ、追付拙者儀被為召候由申来候ニ付、私宅之玄関分則又致登城候処ニ、追付被召出しはらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

同十四日

拙者儀今日ハ少持病氣ニ而不罷出候、帯刀昼時分ニ御城分之帰りニ私宅へ立寄申候
一当年頭為御祝儀江戸へ御樽肴指上申候、使者ニ土肥門左衛門指遣候処ニ、殿様江戸御発駕被遊、藤沢ニ而右之御樽肴津田治兵被致披露指上申候、就夫天野七郎右、津田治兵迄以へよび被申時服致拝領候、就夫天野七郎右、津田治兵迄以使者先御礼申上候

同十五日 夜ニ入雨

今朝五半時分ニ権五郎、主税助召連致登城候処ニ、頓而被召出しハらく御前ニ罷有候、権五郎、主税助も首尾能致御目見被為懸御詞忝仕合ニ而、四過ニ致帰宿候、拙者ハ少跡
ハ帰宿仕候

同十六日 終日雨

拙者儀昨晚今少頭痛いたし持病之心も有之行歩も不自由ニ付、今日ハ登城不仕候

同十七日

昨日ハ終日夜ニ入候迄雨ふり申候処ニ、今日ハ天氣能御祭礼相濟申候、拙者儀昨日之通未氣分能無御座ニ付、今日も不罷出候

同十八日

明後廿日大猷院様廿一年御廻忌ニ付、和歌於御靈屋今日ハ御法事初り申候ニ付而、殿様今朝四時分ニ御參詣被遊候由、拙者儀未氣色透と無御座候ニ付而、今日も不罷出候

同十九日

今朝ハ四時分ニ致登城候処、頓而被召出しバらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一明日御仏殿江御いくわんニ而御參詣被遊候、御供ニハ帶刀、

丹波守罷出候、拙者儀ハ不行歩ニも御座候間、御跡ニ成共勝手次第致參詣候様ニと御意之旨、大沢善右、垣谷十郎兵衛被申聞、過分難有仕合也

同廿日 朝少雨

和歌於御靈屋今朝五過ニ御法事初り申候、殿様四過ニ御いくわんニ而御參詣被遊候、追付御法事相濟、昼前ニ御帰被為成候、拙者儀今朝五前ニ雲蓋院迄致伺公、先御位牌奉拜、扱御供相勤申候、尤いくわん着し申候、殿様御帰被遊候御跡ニ追付帰宿仕候

同廿一日

今朝於雲蓋院御法事御座候、山門之出家衆去十六日被致到着、頃之御法事被相勤、直ニ今日之御法事も御執行候、殿様今朝五過ニ御參詣被遊、夫ハ養珠寺へ御參詣被為成、昼時分ニ御帰被為成候、拙者儀今朝五前ニ雲蓋院へ致伺公、御跡ハ妹背山江參詣仕、扱養珠寺江致伺公、昼過ニ帰宿仕候

一今朝浜中之御寺へ花指上申候、使岡七郎兵衛

同廿二日

今朝四時分ニ登城いたし、今日ハ寄合日ニ而何も会所へ被參、御城ニハ一人も仲間之衆居不被申候、弥三左、治兵ニ逢申、則可罷婦と存候処ニ達御耳間も無之、則被召出しハらく御前ニ罷有候

一昨日御装束ニ而御參詣被遊候節、拙者儀致御供候、重りもケ様之節ハ御跡ニ成共勝手次第ニ罷出候様ニと、過分忝御意ともニ而退出仕候

一御城直ニ帶刀所へ見廻申候、会所へ被出留主ニ而可有之と存候へ共、江戸ハ被參見廻不申候ニ付而也、併病氣ニ而今日ハ不出候由ニ候間、尚以奥へ立寄早速罷婦候

一夫ハ昔沼新九へ見廻申候、是ハ一昨晚半兵被相果候ニ付、昨日見廻可申と存候へ共、和歌へ參彼は手透無之故、昨日ハ使指越今日見廻申候

一夫ハ若州へ見廻申候、是ハ江戸へ御使ニ被參、江戸私宅へ見廻被申使者をも給、爰元へ被婦候而も見廻被申、度々使ニも預候ニ付而、若州会所へ被出留主故申置罷婦候

同廿三日

今朝四時分ニ登城いたし候処ニ、頓而被召出しハらく御前ニ罷有候、其以後被仰出候ハ長福様御用之儀ニ付而也、各

之書状ニハ、正木五郎右衛門儀對馬守と連状ニ認指越可申由御意之旨、帶刀、丹波守、拙者ニ被申聞候ニ付而、則又御前へ罷出、丹波守披露ニ而右之御礼申上、昼前ニ婦宿仕候

一宇治之娘、帶刀女共私宅へ參度由、度々申越候ニ付而今日よび申候

同廿四日

殿様今朝五過ニ大知寺へ御參詣被遊、それハ報恩寺へ御參詣被為成候、拙者儀今朝六半時分ニ罷出、右之御供相勤、五半時分ニ婦宿仕候

同廿五日

今朝四過ニ登城いたし候処ニ、頓而被召出しハらく御前ニ罷有、昼前ニ婦宿仕候

同廿六日

今朝四時分ニ登城いたし候処ニ、頓而被召出しハらく御前ニ罷有、昼前ニ婦宿仕候

一今晚松野大学被參、子共馬けいこ致させ候、尤三五郎參候

同廿七日

今日ハ登城不仕候、今晚与左、喜右、五郎右、海安、水見

なと被參咄被申候、数寄屋ニ而料理出し茶ふるまい、夜ニ
入候迄語り、五過ニ歸り被申候

同廿八日

今朝五過ニ權五郎、主税助召連登城いたし候処ニ、頓而被
召出、父子共ニ首尾能御目見仕、拙者などハしハらく御前
ニ罷有候、頓而御表へ出御被遊候、今度始而諸士之御目見
御座候、扨入御被遊候以後、四過ニ歸宿仕候

同廿九日 時々雨

今日ハ不罷出、終日宿ニ有之候